

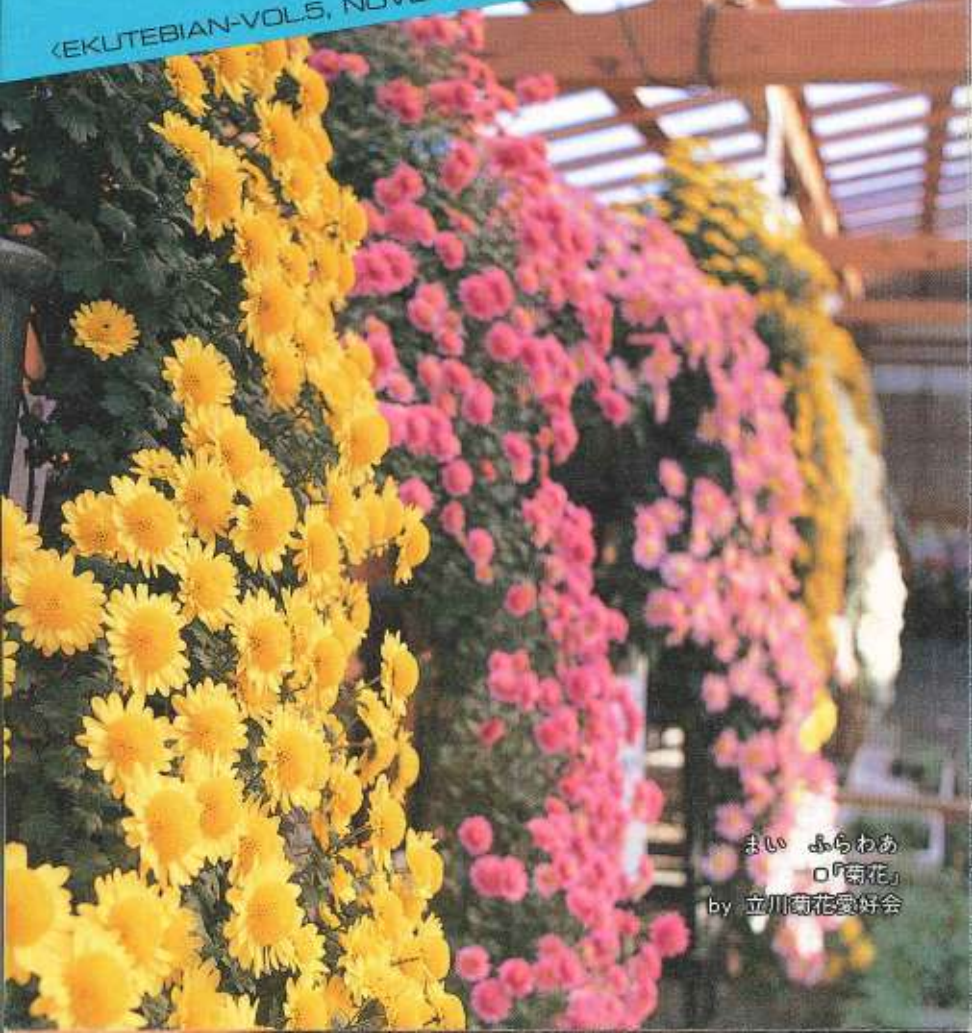
月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

えくてびあん

〈EKUTEBIAN-VOL.5, NOVEMBER, 1988-EKUTEBIAN〉

11



まい くらわあ
〇「菊花」

by 立川菊花愛好会

一家言あり わが可否道

かの太田蜀山人、珈琲を喫して、飲めどもんぢやネエ、といみじくも曰た。それからおよそ200年、今や生活にすっかり根を穿ちている珈琲であります。おいしく飲むには色・味・香り、この道も中々に奥が深い。プロの“点てる”珈琲がひと味もふた味も違うのはやはり“可否道”に徹したココロイキのなせる技なのであるうか。



村杉久江さん (堺町) 須崎一喜さん (津町) 寶藤全作さん (堺町) 遠藤亮一さん (堺町) 福山玄一さん (柴崎町) 初瀬清光さん (柴崎町)



お客様の個性にあわせカップを選ばせたり、女性らしさが溢れる。



広々と落ち着いた中で心静かに珈琲を味わう気分はまた格別か。



小料理屋風の、らしくない造りとマスターの作務衣がキマッてる。



ヨーロッパ風のスタンダードコーヒー、意こして楽しめる新空間。



レトロなホビーが店のなかに掛けこんだ、遊びつつはいる店内。

⑩ 千日寝かせた豆 オールドビーンズ、深い味わいと濃縮の店内。

豆の「味わい」秘伝が、これです。
(川崎町・一喜さん)



豆は正直、焙煎を自分でやらないなんて。(丸山さん)

いれる技術もナンだけど、やっぱりコーヒーは淹れたてよ。
(ナレーフ・村杉さん)

味は結局「自分自身」だからね。
(ともや・寶藤さん)

キハムリムなごち、
「自然派」が一番。
(中野町・福山さん)

おれ、生活の「句読点」だからね。
(丸山さん)

がんばったソウルの美帆ちゃん



ソウルオリンピックに女子体操選手の一人として参加の立川人、信田美帆さん。決してベストではない体調等、様々な悪条件を逆境者しい精神力で克服、日本女子でただ一人、個人総合に出場しました。世界の強豪相手に全力を尽した美帆ちゃん。大きな拍手をおくりたいと思います。帰国早々の全国高校選抜では堂々の優勝、休む間もなく次のパルセロナに向けてトレーニングを開始というハードさです。ガンバレ、明日の美帆ちゃん!

街並やそれを囲む自然が、急速に変化していくなかで、忘れられてしまいつつある、方言や歴史、そして民謡。古にしたためられた書の中には、生活の様子や時代の流れなどがホットに書きしるしてあった。そして、今、時の薫りを伝える。

古の郷土の薫りを今ここに

会ができて25年、棒打ち唄を残そうって始まったんだ。初代会長の山本宗録氏と砂川中歩いで、いろいろな唄を採集したけど、中には集めながらも消えてしまったのもあったね。とにかく後継者作りが大変なんだ。わらべ唄なんか希望者はいっても手不足で増やせないのが残念だよ。伝承民謡保存会は三多摩でも砂川だけだし、文化を後世に伝えていく大切なことだから若い人にどんどん参加してほしいね。



荒井 一さん
伝承民謡の保存
(上砂町3丁目)



豊泉喜一さん
古文書の研究
(柏町3丁目)

結成して3年程で、まだまだ誰ぞです。中央公民館で開かれた古文書の講座が切っ掛けで会が出来まして、いまは15、16名の方と共に月一回の研究会を開いています。主に本村の名主鈴木家に伝わるものを中心に読んでます。これが実に当時の生活の様子を克明に示してありまして、その一つに、幕府の命で架けた橋の代金の請求やら、結核上のエピソード等々。やっぱり自分の郷土を知りたいし好きです。



鈴木 功さん
方言の研究
(富士見町3丁目)

残しておかなくていいよ、7年程前から温めてあったね。ちょうど立川のわらべ遊び、わらべ唄の本を作ったところで、廃れつつある方言を書き留めておかなきゃ、と立川中を聞き回りましたね。方言を話してください。といってもそう話せるもんじやない。色々工夫しましてね、何人かで寄ってもらい、心が打ち解けるのを待たせたりと。話し言葉や文字に直すのもづれえもんでした。方言の温かさは忘れたいくないね。



五十嵐文次さん
公私日記の研究
(柴崎町3丁目)

「公私日記」というのは幕末、日本が大きく変化する時代の立川の名主、鈴木平九郎という人が公私にわたって残した記録なんだけど、これ位詳しい日記は珍しいんだ。当時立川が非常に進んだ土地柄だったとか、貴重な話がいっぱいだし、登場する人物がとて魅力的でね、まさに、宝庫だよ。50歳の時、それまでと違う何かをやらうと始めた全くの門外漢がここまで続けられたのは講師の伊藤先生(近世史)のお蔭だね。

漢字テスト

空欄に一字挿入を試みよ。
● 松 ● 単 ● 刀 ● 水 ● 月 ● 入

いつも、暮らしの友人。
出会いと
水いおつきあいを大切に、
皆さまの暮らしを
お手伝いします。
埼玉銀行

防災向上に、企業も一丸
自衛消防訓練審査会が今年(9月20日立川グラウンドにて)も行われ、新事業所を加え41(女性隊含む)チームが参加。安全・敏速をモットーに、1ヶ月前から事業所の大きな協力を進められてきた。成績発表の時には涙ぐむ人もいて、連日の訓練の厳しさがうかがえた。男子は、都下水道局住重高杉チーム、女子は、伊勢丹立川店が優勝した。



原田孝一 写真展開催
● 期間 12月23日～1月11日
● 会場 明堂ホール
● 西武園分寺線 鷹の台下車
● お問い合わせ TEL. 0423-41-1455

真如苑だより
あつという間に秋が深まってきました。冬仕度に追われていらつしやるご家庭も多いのではないのでしょうか。来るべき冬に備えて、身も心も暖まりにお出かけ下さい。お待ちしております。

日時 11月12日(出) 午後2時～4時
御本尊、真如堂御像をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。
立川市民(成人)に限らせて頂きます。
お申し込みは、えくてびあん・コンパニオン(本誌)を手渡ししてください。

立川クイズ
江戸時代、奥多摩の材木は後組まれて多摩川を下り、江戸へ運ばれましたが、羽村の堰や幕府許可の渡船場を通るには、お金が必要でした。それは、日野の渡しの場合、それは、いか程に候や?
①5文②9文③13文(ちなみ)に当時、大工の日当は13文位)
(10月号の答え) ③
強風「赤っ風」が吹くと舞い上る土で辺りが暗くなった、と。

第30代 勝又高良氏 勝又氏が立川駅長の辞令を手にした頃、立川の街は不穏な空気に包まれていた。総評第28回幹事会、立川基地撤去、自衛隊移駐反対労働組合会議の設置が決定されたのである。週末になると毎度のようになり米軍の北ベトナム爆撃に抗議する全労連と、これを阻止しようとする機動隊との激しい衝突が繰り返された。駅構内のパラスト(線路に敷いてある砂利)が投石に使用された為、線路の路盤をアスファルト化し、駅構内への不法侵入による運転事故を防ぐ為、柵を設け、鉄線張るなどの防護策が取られた。また、全労連は個人車位のグループ毎に電車を使って立川駅に集結する為、一般乗客

立川駅長列伝
⑪ 中野 明
このトラブルを避ける意味からも駅長自ら北口改札に立ち、整理誘導した。一般のお客さんに絶対怪我をさせてはならない。その一念だったという。その為、勝又駅長は二日も休む事が出来なかった。

第31代 常盤具美氏 常盤駅長は職員との協調・融和なくしては円滑な業務は望めないとして、著任早々に労働組合の分会長と今後の方針について検討し合った。また、その存在すら忘れ去られていた。地

野鳥と遠近法の詩
● 期間 12月23日～1月11日
● 会場 明堂ホール
● 西武園分寺線 鷹の台下車
● お問い合わせ TEL. 0423-41-1455

工房から
● 生活のなかに、ごく自然に使っている言葉や出来ごと。時という流れに乗っていくとその価値の大きさに驚くことがしばしばあります。古い文献を解説したり、方言、民謡を集めてみると思いのほか、郷土に対する興味が深まるもの。富士見町にある歴史民俗資料館で郷土を探求してみたい。● 先日行なわれたミス東京コンテスト、惜しくも入賞ならず。来年は、あなたが主役。詳しくは商工会議所へ。● 今年はオリンピック日和の日本。テレビに釘付けの悪天候が続く中をソウルでは、わが街の美帆ちゃんが大きなプレッシャーのなか、力強く技を見せてくれた。苦境のなかでも全力を尽くす大切さを教えられたのは、当方だけではないか。● 今日も千手昨日の色のえくてびあん
(編集) 石塚敬美 小川知子 神山清子 藤川理
田中恵子 沼上麻里 牛正正史 原田俊子
(写真) 天野武典 板橋一明 吉田義治
スタジオ269

未来兼備! 立日橋
立川の未来が方々で語られる。立日橋もその一つ。36年10月に計画決定され、55年3月に着手。西部中核都市として注目されるわが街にとって重要な橋。64年に一部が、66年に全面開通。と、近未来にはモノレールも計画されている。「立日橋」の名も近隣の市の賛同のもと名付けられた。多くの市民に未来を運ぶ橋とし、大いに親しみ愛されるであろう。

あーとさろん

晩秋の「あーとさろん」は、写真家の方々をお呼びしました。その分野ならこの人、と言われる方ばかり。積まれてきた実績は、さすが、であります。



新井康之さん

●「フラインターの中に絵を創造する」のが写真家、と、国際写真サロン他、数々の賞をとる。
(富士見町)



川上康之さん

●世界各地の民俗・遺跡をライフワークに。日本に落ちつく暇がない。(若菜町)



天野武男さん

●世界をとり回す。パンガラアンシユ写真展は民族の希望を表現、高い評価を。
(富士見町)



久田雅夫さん

●“野生王国”を撮り続け、珍獣“貂”の写真集を今年出版。その写真展が全国で開催された。(柴町)